

第63回プログラミング・シンポジウム開催に際して

第63回も前回に続いてリモート開催である。今年令和3年も新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に開け、暮れようとしており、一時デルタ株の新規感染者数が減少していたがまた増加傾向にある。更にオミクロン株の出現である。アルファから始まってとうとうオミクロンまで来た。この原稿を書いている時点では感染力が「つよい」といわれているものの、未だわからないことが多い。2019年12月に武漢で新型コロナウイルス感染症が発生しおり、日本でも2020年1月16日に最初の感染が確認されていた。実際61回2020年1月の開催時の参加者に感染者がいたら三密状態のプログラミング・シンポジウムでは悲惨なことになっていたと思われるぞっとする。ワクチンの3回目の接種がはやく行われることを期待するものである。

リモート開催なので、面と向かって議論をするのではない。色々不便をおかけすることになるが、ご理解いただきたい。詳しくはプログラミング・シンポジウムのページ<https://prosym.org/>の「第63回 プログラミング・シンポジウム」プログラムを参照されたい。

今回は、一般発表が9件とポスターのみの発表が1件と、招待講演1件、山内奨励賞受賞講演が2件、GPCC, ポスター・デモセッションである。それからオーガナイズドセッションがある。今回は自身の都合でプログラム編成に参加できなかったのも申し訳なく思っており、残念でもある。幹事長をはじめ幹事団の努力に感謝する。

計測機ソフトウェア、特にプログラミングの将来に向けて活発な意見交換をされたい。

なお、多くの方々の努力によって、過去のシンポジウム報告集のpdf化が完了した。今後皆さんが参照できるよう努力しているところである。

令和3年12月(2021-12)

プログラミング・シンポジウム委員会
委員長 辻 尚史